

道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 1年3組 35名
指導者 藤井 陽祐

主題名 よい ことと わるい こと

1. ねらいと教材

学校生活でのよいことについて、教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりすることを通して、進んでよいことを行おうとする実践意欲と態度を育てる。

教材名「よい ことと わるい こと」 出典「どうとく1 きみがいちばんひかるとき」光村図書

内容項目 A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任

(関連する内容項目 C-14 よりよい学校生活, 集団生活の充実)

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。それとともに、より積極的に健康的な自己像を描くことができるようにすることが大切である。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が自らを信じる姿勢であると考えられる。ただし、それは、過信や自分勝手ではなく、よいと思ったり正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や自律的な態度でなくてはならない。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じることに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いこととの区別が的確にできるように指導しておくことは重要である。

よいと思えたことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、よいことと悪いことを区別し、よいと思えたことを自ら進んで取り組むための実践意欲と態度を育みたい。

(2) 児童の実態【児童観】

本学級の児童は、どんなことにも興味・関心を示し、意欲的に活動する児童が多い。年度初めには、きまり集会を開き、学校のきまりの動画を視聴したり、きまりの意義について話し合ったりすることで、みんなの安全・安心のためにきまりを守っていこうとする意欲が高まっている。しかし、楽しさや自分の都合を優先し、きまりを守れていない実態もある。このためきまりを守ることのよさについて考え、自らを振り返る学習活動を構想していきたい。

(3) 教材の特質と活用方法【教材観】

本教材は、学校生活の日常的な場面を取り上げている。休み時間に校庭で遊ぶ児童の様子を表す場面絵のみの教材である。この時期の児童の学習状況に鑑み、言葉による説明はない。どんなところがよいことなのか、どんなところが悪いことなのか、児童に自ら気付かせる構成となっている。話し合いを通して、よいと思うことを進んで行うことの大切さや、それができたときのすがすがしい気持ちにも気づかせたい。話し合いの際には自らの考えを持ちやすいように、一人一台端末を活用し、表情の絵文字を選ぶようにし、選んだ理由を話し合うことで、よいことをしたときの気持ちを捉えるようにしたい。

3. 本時の学習指導過程

本時のねらい	学校生活でのよいことについて、教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりすることを通して、進んでよいことを行おうとする実践意欲と態度を育てる。
評価の着眼点	教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりしている。
具体的な児童の姿	「掃除をした時、すっきりして気持ちよくなった。」 「落とし物を拾った時、「ありがとう」と言われて嬉しかった。」 「本棚の本を揃えた時、これで次に使う人が使いやすくなるからいいなと思う。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
4分	1. するとよいと思うことや、悪いことについて話し合う。	○教室や学校の様子を写真で提示し、ねらいや教材に意識を向けられるようにする。 ・一つ一つの写真についてよいことか悪いことか問い、本時がよいことと悪いことの判断について考えていくことを意識するようにする。 ・よいことをした経験を問い、その時の気持ちを確認し、めあてを位置付ける。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて よいとおもったことをするとどんなきもちになるかかんがえよう </div>			
8分	2. 「よいこととわるいこと」を見て、よい行動やその行動の理由を話し合う。	○「よいこととわるいこと」を提示し、よい行動やその行動の理由について考えるようにする。 ・全体の絵をTVで示す。その後児童の発言に合わせて、該当する箇所の挿絵を黒板に掲示していく。	挿絵（全体） 挿絵（該当箇所）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 基本発問 どうしてよいことだとおもったのかな。 </div>			
8分	3. 悪い行動や、どうすればよかったかについて話し合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【想定される児童の姿】 ・花に水をあげている子は、生き物を大切にしているから。 ・一輪車に乗るのを助けている子は、友だちが嬉しくなるから。 ・ボールを片付けている子は、次に使う人が使いやすいから。 ・転んだ友だちを助けている子は、優しいから。 </div> ・児童が挙げたよいことの根拠を板書することで、よいことがみんなのためになっていることを共通理解できるようにする。 ・補助発問として、「よいことを見たらどんな気持ちになるか」と問い、よいことをすると誰もが気持ちよくすごせることを感じるようにする。 ○「よいこととわるいこと」の中から、悪い行動や悪いと思う理由について考えるようにする。	挿絵（全体） 挿絵（該当箇所）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 基本発問 どうしてわるいことだとおもったのかな。 </div>			
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【想定される児童の姿】 ・うんていで割り込んでいる子は、並んでいる子が嫌な気持ちになるから。 ・窓からゴミを投げ捨てている子は、学校が汚くなるから。 ・友だちに水をかけている子は、友だちが嫌な気持ちになるから。 ・窓から校舎に入っている子は、落ちると危ないから。 </div>			

15分	4. よいことをした時の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が挙げたわるいことの根拠を板書することで、わるいことが自分やみんなの困りにつながることを共通理解できるようにする。 ・補助発問として「どうすればよかったか」と問い、悪いことをしている子に対しての非難に終始しないようにする。 <p>○児童自身がよい行いができた経験や、その時の気持ちを問い、よいと思うことをした際のすがすがしい気持ちになることを共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵のようなことをした経験があるかを問い、特によいことをしたときの経験を問うことで、そのときの自分の気持ちについて考えるようにする。 	iPad (表情の絵)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中心発問 よいことをじぶんからしたとき、どんなきもちになったかな。 </div>			
10分	5. 本時の振り返りをする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【想定される児童の姿】 <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の掃除をした時、気持ちよくなった。 ・友だちが落とした物を拾ってあげた時、「ありがとう」と言われてうれしかった。 ・本棚の本を揃えた時、みんなが使いやすくなるからいいなと思った。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・よいと思うことをした時の気持ちについて、iPadのロイロノートの絵文字の表情から合うものを選ぶようにする。 ・ペアや全体で、絵文字の表情を基によいことをした経験やその時の気持ちを話し合うようにする。 ・話し合う際には、表情を選んだ理由を話すことで、行為と気持ちをつなげて考えるようにする。 ・児童のそれぞれの気持ちを共有できるように、自分が選んだ表情を教師機に提出するようにする。 ・同じような表情が出た場合、補助発問として本当にその表情だけかを問い、単純な気持ちよさだけでなく、多様な気持ちに気付くようにする。 <p>※考えを持ちにくい児童がいた場合は、学校で行っている3つの取り組み（挨拶、掃除、履き物揃え）の経験を想起するようにし、その時の気持ちを振り返るようにする。</p> <p>○「これからどんなよいことをしたいか」を問い、具体的な場面を想定することで自分事として考えるようにし、発言をペアや全体で認めていく。</p>	iPad (ワークシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 基本発問 これからどんなよいことをしたいですか。 </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童のそれぞれの考えを共有できるように、児童がロイロノートのテキスト上に考えを書き、教師機に提出するようにする。 ・一つの考えに集約するまとめは行わない。 ・よいことをすることは大切だが、人はよいことがうまくできなかったり、反対に悪いことをしてしまったりすることもあることを確認する。 ・全員が発言できるようにペアで話すようにする。 ・全体では、どうしてそう思ったかを問い、進んでよいことをしようとする児童を認めていく。 	

4. 評価

<評価の着眼点>

教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりしている。

<方法>

- 授業中の発言内容や話し合いの発言内容から把握する。
- ワークシート（iPad）の内容から把握する。

5. ICT（一人一台端末）の活用について

活用場面① 児童がよいことをした経験を話し合う際に、ロイロノート上にその時の気持ちを表情の絵文字で表し、その表情を選んだ理由とともに話し合うようにする。

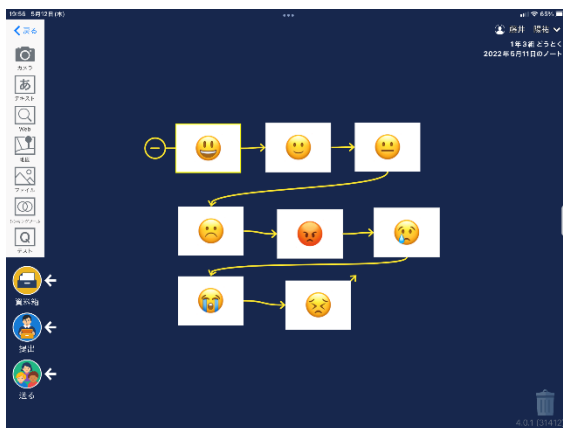
活用のねらい① よいことをした時の気持ちを絵文字で視覚化することにより、児童が自分の考えを相手に伝えやすくするとともに、友だちの多様な考えを知るきっかけとする。

活用場面② 児童がこれからどんなよいことをしたいかをロイロノートのテキストに理由とともに記述する。

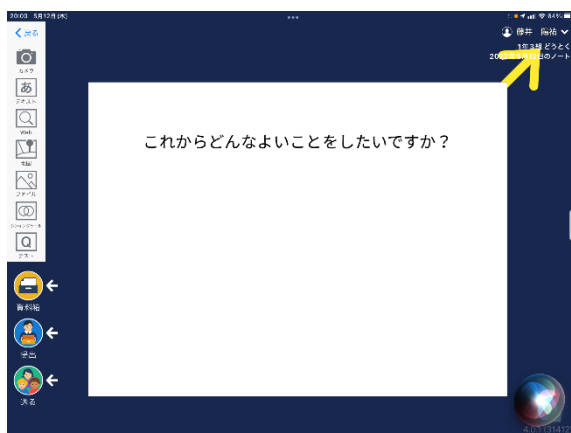
活用のねらい 教師がそれぞれの児童の考えを共有したり、授業中発言の無い児童の考えを取り上げたりすることで、一人一人の考えを認め意欲を高めていくとともに、児童が自分の考えを蓄積していく。

6. その他

表情の絵文字



ワークシート（iPad）



【令和4年度 道徳 授業づくりシート】

生きて働く知識・技能の習得	習得した知識・技能を活用することができる力	グローバルな視点を持ち世界やふるさとに貢献しようとする力	
道徳的価値についての理解	自己を見つめる	多面的・多角的に考える	自己の生き方について考えを深める

令和4年5月31日(火) 5校時	特別の教科 道徳	1年 3組
------------------	----------	-------

主題名：よい ことと わるい こと 教材名「よい ことと わるい こと」内容項目：A-1【善悪の判断, 自律, 自由と責任】 出典「どうとく1」光村図書

本時のねらい：<価値> 学校生活でのよいことについて、
 <手立て>教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりすることを通して、
 <道徳性>進んでよいことを行おうとする実践意欲と態度を育てる。

具体的な児童の姿 「掃除をしたらすっきりして気持ちよくなった。」
 「落とし物を拾ったら「ありがとう」と言われて嬉しかった。」

・道徳的判断力 ・道徳的心情 ・道徳の実践意欲と道徳的態度

評価の着眼点 教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりしている。

振り返り

これからどんなよいことをしたいかな。

・ならんでいるときにゆずりたい。
・といれのすりっぱをそろえたい。
・けがをしているひとをほけんしつにつれていきたい。

多様な表情の絵文字

・へやのそうじをしたらきもちよくなった。
・ともだちがおとしたものをひろってあげたら「ありがとう」といわれてうれしかった。
・ほんだなのほんをそろえたらみんながつかいやすくなるなとおもった。

補助発問

どうしてそのきもちになったのかな。

中心発問

よいことをしたとき、どんなきもちになったかな。

表情の絵文字

わるいこと 該当箇所挿絵

・ならんでいるこはいやなきもちになるから。
・がつこうがきたなくなるから。
・ともだちがいやなきもちになるから。
・おちるとあぶないから。

基本発問

どうしてわるいことだとおもったのかな。

表情の絵文字

よいこと 該当箇所挿絵

・いきものをたいせつにしている。
・ともだちがうれしくなる。
・つぎにつかうひとがつかいやすい。
・ともだちにやさしい。

基本発問

どうしてよいことだとおもったのかな。

よいことと わるいこと

よいとおもったことをするとどんなきもちになるかかんがえよう。

導入場面での発問

このしゃしんはよいことかな。わるいことかな。

・きょうしつがよごれているからわるい
・みんながつかうものをそろえていてよい

- 指導・ICT活用場面等 *①~④は県テーマに対する本校の取り組み
- ICT ・よいことをした経験を話し合う際に、ロイロノート上にその時の気持ちを表情の絵文字で表し、その表情を選んだ理由とともに話し合うようにする。*④
- ・これからどんなよいことをしたいかをロイロノートのテキストに記述する。*④
- ①教室や学校の様子を写真で提示し、ねらいや教材に意識を向けられるようにし、本時のめあてを提示する。(4分) *②
 - ②「よい ことと わるい こと」を提示し、よい行動やその行動の理由について考えるようにする。(8分) *②
 - ③「よい ことと わるい こと」の中から、悪い行動や悪いと思う理由について考えるようにする。(8分) *②
 - ④児童自身がよい行いができた経験や、その時の気持ちを問い、よいと思うことをした際のすがすがしい気持ちになることを共有できるようにする。(15分) *①
 - ⑤「これからどんなよいことをしたいか」を問い、具体的な場面を想定することで自分事として考えるようにし、発言をペアや全体で認めていく。(10分) *②③

